犬の登録及び狂犬病予防集合注射を実施します！

飼い犬には狂犬病予防注射を受けさせましょう

問 環境防災課 ☎84-0314

生後91日以上の犬は、年1回（4月から6月の間に）狂犬病予防注射を受ける義務があります。町では4月に下記の日程で狂犬病予防集合注射を実施します。最寄りの会場にお越しください。なお、集合注射の追加実施は行いませんので、当日都合のつかない方や集合注射で注射を受けない方は、個別に動物病院で注射を受けさせてください。

狂犬病は、感染後、発症すると治療ができません。飼い主自身や家族、近所の方や他の動物への感染を防ぐためにも注射を受けさせましょう。

▼注射を受けた犬の飼い主には注射済票と標識シールを交付します。

平成24年度狂犬病予防集合注射日程

日時		場所
4月18日（水）	9：30〜10：15	開成町民センター
	10：30〜10：55	上延沢自治会館
	11：10〜11：30	円中自治会館
	13：15〜13：45	金井島公民館
4月19日（木）	9：30〜10：05	吉田神社境内
	10：20〜10：45	日枝神社（中家村）
	11：00〜11：20	宮台老人憩の家
	13：15〜13：30	牛島自治会館
	13：45〜14：25	開成駅前公園（下島）

集合注射来場時の注意

①犬の体調が悪いときは、事前にかかりつけの獣医師にご相談ください。

②犬の体を清潔にして、犬を確実に制御できるかたが連れてきてください。

③フンは飼い主が責任をもってお持ち帰りください。

④駐車場が限られていますので車でのご来場はご遠慮ください。

その他

①当日は晴雨にかかわらず、実施します。

②新しく犬を飼い始めてまだ登録をしていない方は、会場でも登録ができます。（生後91日以上の犬が注射を受けられます）

③老齢犬や病気の犬も獣医師の診断を受け、注射猶予の手続きをとる必要がありますので、必ず動物病院へ行くようにしてください。

犬のフン尿の始末は飼い主の責任です！

毎年犬のフン尿の放置について、苦情が寄せられます。一部の心ない飼い主のために、迷惑をしている方がいらっしゃいます。

また、責任をもって始末している飼い主が誤解を受ける原因にもなります。

誰もが快適に暮らせるまちのために、犬のフン尿は飼い主が責任をもって始末してください。

●犬がフンをしてしまったときのために

ティッシュペーパーやビニール袋など、フンを拾えるものを携帯しましょう。

●犬が尿をしてしまったときのために

ペットボトルなどに水を入れて携帯し、尿をした場所を流しましょう。

●散歩する前に

フン尿は、できるだけ散歩の前に家で済ませるようしつけましょう。

◆ 集合注射の手続きに必要なもの ◆

（当日お持ちください）

●愛犬手帳
●町からのハガキ（4月上旬に配布）
●手数料

◇登録済みの場合◇

狂犬病予防注射料金	2,950円
注射済票交付手数料	550円
合計	3,500円

◇24年度新規で登録の場合◇

畜犬登録手数料	3,000円
狂犬病予防注射料	2,950円
注射済票交付手数料	550円
合計	6,500円

※動物病院で注射を受ける場合の費用は、直接動物病院へご確認ください。

子育てワンポイント ⑨⑥

Q 泣いている赤ちゃんに、どう対応していいのかわからなくなる時があります。

A 赤ちゃんが生まれてうれしい反面、不安も同じくらい・・・「どうして泣きやまないの？」「私の対応がいけないのかしら」と悩むお母さんも少なくないでしょう。赤ちゃんは「おなかがすいた」「ねむたい」など自分の欲求を、泣くことで伝えます。泣くことは赤ちゃんの自己アピールです。まずは、「何かな？」と原因を探ることからはじめましょう。おむつは汚れていないか、おなかがすいていないか、痛いところはないか、暑さ・寒さは大丈夫かをチェックして問題なければ、気にしすぎないこともたいせつです。

また、泣くのは、不安な気持ち、さびしい気持ちを表現するサインでもあります。そのようなときは、抱っこするとよいでしょう。お母さんが優しく声をかけて、ゆったりした気持ちで抱っこしてあげると、それが赤ちゃんにも伝わり、満足感と安心感を与えることにつながります。それでも泣きやまないときは、散歩にでかけたりして、気分転換をさせてみましょう。要求に応えてあげることで、赤ちゃんとの間に信頼関係ができ、何を求めて泣いているのか赤ちゃんの気持ちが少しずつ読み取れるようになっていきます。

子育ては大変なこともありますが、ひとりで悩まずにいろいろな人の助けをかりながら楽しく子育てしましょう。

問 保険健康課 ☎84-0327

生き生きレポート 子どもたちは今 ⑬⓪

「一人一人が集団生活の楽しさを味わうために」

開成幼稚園介助教諭　石塚　春美

この春、開成幼稚園を元気に卒園した子どもたちも期待と不安とを胸に、入学を心待ちにしていることでしょう。

私が介助教諭として開成幼稚園に勤め始めて、十一年になります。三十年近く前にも開成幼稚園に勤務していたので、そのころの園児たちが、お父さんお母さんになって、またお会いできることに、うれしさと懐かしさと月日の早さを感じています。

幼稚園には、初めての集団生活に戸惑っている子、思い通りにいかず手が出てしまう子など、いろいろな子が入園してきます。毎日の保育の中で、少しずつ信頼関係を築きながら、一人一人の子どもの姿を丁寧に観察し、特性を理解していきます。

集団生活に参加する喜びを得にくい子は、今どんなことに困っているのだろうか。どんな言葉がけや手立てをしたら幼稚園生活がしやすくなるのだろうか。個々の特性を生かしながら、今、必要な支援は何かを担任と共に考えていきます。

園外保育に出かける朝の事。目的地に向かう簡単な地図を私が書いておくと、「何？」「あ、ここ知ってる。この近くに○○があるんだよ」と興味津津です。「じゃあ、それも地図に描こう」こんなふうに子どもたちと特製の地図を作り、それを持って出発。歩き疲れて注意力が途切れそうになったときにこの地図の出番です。「ここまで来たよ、あと少し」「この辺に○○があるはず。探してみよう」と私が声をかけると、地図をのぞき込み、改めて周りの様子に目を向けて、歩き出しました。支援を必要とする子のために作った地図がクラス皆の頑張る力の元になっていたのです。

子どもたちが様々な活動に意欲を持って取り組めるように、はじめはちょっと頑張れそうな小さな目標を設定します。

「できたね」「年長さんみたい」「一年生みたい」と頑張りを認めることで「できた」「やった！」と、子ども自身の喜びが達成感となり、成功体験を積み重ねることで、頑張る気持ちがさらに高まっていきます。

これからも、担任の先生と連携しながら、子どもたちにとって、園生活が楽しく豊かなものとなるよう、教材の工夫や保育環境を見直し、一人一人の持つ力を引き出していきたいと思います。